

安全の手引き

令和4年1月

在ドバイ日本国総領事館

I	防犯の手引き	
1	防犯の基本的な心構え	1
2	防犯対策上のチェックポイント	1
3	交通事情と事故対策上のチェックポイント	4
4	略取・誘拐対策上のチェックポイント	6
5	とっさの一言	7
II	緊急事態発生時の手引き	
1	平素の準備	8
2	テロ事案に遭遇した場合の対応	9
3	緊急事態発生時の対応	9
4	安否確認及び国外退避に向けた支	10
5	緊急携行品・備蓄品の準備	12
6	主要緊急連絡先	13

はじめに

ドバイは中東地域の中でも目覚ましい発展を遂げており、その発展の過程において、積極的に外国企業を誘致し、労働力を補うために近隣諸国から多数の外国人を受け入れてきました。その結果、現在では外国人居住者が人口の9割を占めるまでになっています。また、観光立国の名のとおり、当地を旅行先として短期訪問する外国人も多いなどの特色があります。

当地の治安当局は、ビジネス環境や対外的なイメージを良好に保つため、治安維持を重視し、厳格な出入国管理のもと犯罪の防止に努めています。他の中東諸国と比べれば当地の治安は良いと言えますが、すり、ひったくり等の窃盗事件、女性や子供が被害者となる性犯罪、SNS等を利用した詐欺事件等の発生は頻繁に報じられており、在留邦人で被害に遭う方もいます。また、宗教上の慣習、文化・風習の差違に関する理解不足等に起因して、不快な思いをしたり、犯罪の被害者となったり、場合によっては犯罪の被疑者になったりする方もいます。

また、当地の周辺の中東諸国の情勢はいまだ不透明と言えます。周辺地域での争乱や紛争が当地に影響を及ぼす可能性は否定できず、緊急事態に備えて計画や準備をしておく必要があります。

この手引きは、ドバイ及び北部首長国に在留・滞在する日本人の皆様を知っていただきたい防犯上の留意点及び緊急事態発生時の留意点をまとめたものです。皆様の安全対策上の参考としていただければ幸いです。

I 防犯の手引き

1 防犯の基本的な心構え

(1) 危機管理意識の保持

自分と家族の安全は「自分達全員で守る」との心構えで危機管理意識を保持し、犯罪や攻撃の対象となりうる「ソフト・ターゲット」と認識されないようにしましょう。

(2) 日常生活の注意点

「目立たない」、「行動のパターン化を避ける」、「用心を怠らない」を念頭に生活し、常に最悪の事態を想定し万全な準備を心がけましょう。

(3) 当地の情勢を正しく理解する

コミュニティ、職場、在留邦人等と信頼できる関係性を作り、日頃から情報収集を心掛け、当地の文化、風俗、価値観を十分に理解しましょう。以下3ページで紹介する「当地特有の事象」などにも配慮しつつ、他人をむやみに刺激せず、目立たないように行動することを心がけましょう。

(4) 住居の安全対策

住居は、在宅時は身を守り、不在の時は財産を守る、まさに生活の基礎です。物件選定時から、安全対策を最優先に考えましょう。

2 防犯対策上のチェックポイント

以下、注意すべきポイントを列挙しました。チェック（☑）を入れるなどして、御自身の状況を確認してみてください。

(1) 住居選定時のチェックポイント

ア 共通項目

- 周辺に落書き、違法駐車が多くないか。不審者が身を潜めるような場所や死角はないか。
- 照明設備は整っているか。電球が切れたまま放置されていないか。
- 玄関ドアの扉の強度、扉の枠の強度は十分か。
- 覗き穴、インターホン等の設備は万全か。
- 入居に際し、鍵が新調できるか。

イ 集合住宅の場合

- 第三者が容易に出入りできない構造か。

- 出入口に管理人又は警備員が（夜間も含め）常駐しているか。
- 駐車場の出入管理、照明設備、夜間の管理は十分か。
- 警報装置、火災報知器、非常ベル、非常口の設備、管理は十分か。

ウ 独立家屋の場合

- 警察署、消防署等が近くにあるか。
- 通報する際に目印となる建築物等が近くにあるか（当地は住所表記があいまいなため、通報時の目安として）。
- 塀、柵、門等の高さ、強度は十分か。容易によじ登れないか。
- 2階への足がかりとなる樹木、構造物はないか。

エ ホテル等一時滞在の場合

- 貴重品は常時携行し、部屋内に放置しない。
- 在室中は常時防犯チェーンを掛け、来訪者は覗き窓で確認し、不用意にドアを開けない。
- 従業員が部屋を訪問した場合は、ドア越しに目的を聞く。
- 訪問者に不審点等があれば、電話でフロントに確認する。

(2) 在宅（居住）のチェックポイント

ア 鍵、錠

- 予備鍵は家族以外に鍵を預けない。
- 貴重品、現金等は、自宅内でも鍵のかかるところに保管する。

イ 警備員、使用人、訪問者等

- 在宅時でも常時施錠（できる限り複数）する。
- 修理、工事等の作業には必ず家族が立ち会う。使用人に独断で修理、工事等を行わせない。

(3) 外出時のチェックポイント

ア スリ、置引き対策

- 多額の現金、貴重品は持ち歩かない。
- ズボンの後ろポケット等、外から見えるところに財布を入れない。
- ウエストポーチ、肩掛けバッグ等は、自分の前に抱えて持つ。
- バッグ等は体から離さない。テーブル、椅子の上等に放置しない。

イ 車上ねらい、自動車盗対策

- 車内に貴重品を残さない（外から見える位置に置かない）。
- 短時間であっても、エンジンをかけたまま車から離れない。

- 車に防犯装備（警報機器、ハンドルロック）を取り付ける。

ウ 性犯罪対策

- 肌の露出や体の線を強調した服装は避ける（宗教的にも要配慮）。
- 夜間の単独での外出は避ける。
- 見知らぬ人から車に乗るよう勧められても乗らない。

エ タクシー利用時の注意事項

- 助手席には乗車しない（わいせつ事犯も報じられている）。
- 行き先地までのある程度の道程を把握しておき、乗車前に運転手に行き先を告げ、確認する（ただし、当地のタクシー運転手は、特に有名な観光地や建物を除き、地理に詳しくない者も多い）。
- 違法な無認可タクシー（白タク）を利用しない。

【当地特有の事象】

① 警察官への対応

当地では、私服警察官をかたって強盗等を行う事件が発生しています。私服警察官（民族服姿の場合もあります。）から職務質問を受けた場合は、身分証明書の提示を求めて確認し、質問理由（嫌疑等）が何かを説明するように求めましょう。

私服警察官から警察署等への同行を求められ、（一見してパトカーではない）普通の車両に乗るよう指示を受けた場合、すぐには乗車せず、パトカーに乗車する制服警察官の立会いを求め、相手が警察官であることの確認を取りましょう。

一方、真正な警察官と分かれば、むやみに反抗せず指示に従いましょう。警察官に対する不敬な態度が犯罪行為とみなされ、逮捕されることもあります。

② 相手に承諾を得ない撮影

当地では、軍・政府関係施設等の撮影が禁止されていることに加え、例え相手が一般市民でも、無断で写真や動画を撮影する行為、またそれをSNSに掲出する行為は、法律違反となります。公共の場所で写真撮影する場合でも、むやみに第三者の容姿を撮影していると捉えられないように注意する必要があります。例えば、他人の子の写真を撮る際にも、保護者からの許可（同意）を得るようにしましょう。

なお、例えば、自分や周囲の人が何らかのトラブルに巻き込まれた際、証拠保全を目的にその状況を撮影しようとする場合であっても、相手の承諾を得ていない場合は、相手のプライバシーを侵害する行為とみなされ、撮影行為が違法と認定される場合があるので、注意が必要です。

3 交通事情と事故対策上のチェックポイント

当地では、自動車が主たる交通手段であると言えます。ほかの中東諸国と比較すれば市中の道路はよく整備され、主要幹線道路は信号がない高速道路となっており、多数の自動車が往来しています。一方で、ラウンドアバウト等の施設や、高速で運転中の無理な車線変更等、道路構造やマナーの点で日本の道路交通環境とは異なる点が多数あります。

以下に列挙するポイントを踏まえ、安全運転に心がけましょう。

(1) 当地の交通事情を理解する上でのチェックポイント

ア ラウンドアバウト

- 左側から来る車両（内部を走行している車両）が優先。
- 進入する際は、内部を走行中の車両に十分注意する。

イ 主要幹線道路（高速道路）の出口付近

- 市内の主要幹線道路は、誤って出口を過ぎるとルート復帰に大回りしなければいけない構造となっている。
- 強引に車線変更する車両、本線上で停止する車両、通過してしまった出口から本線上をバックしようとする車両等がいるので要注意。

(2) 安全運転3原則

ア 交通法規の遵守

- シートベルトを必ず着用する（後部座席を含む。）。
- 制限速度、信号、一時停止を厳守する。
- 携帯電話を使用しながらの運転はしない。

イ 防衛運転の励行

- 周囲の状況に合わせた速度、適切な車間距離の保持を心がける。
- 無理な運転は避け、十分な安全確認による「防衛運転」に徹する。

ウ 飲酒運転の厳禁

- 飲酒運転で事故を起こすと、重罰が科され、保険も適用されない。
- 近距離であっても飲酒運転は絶対にしないこと。

(3) 事故当事者となった場合のチェックポイント

ア 現場保存

- 車を動かせる状況であれば、路肩等、他の車両通行の妨害にならない場所に車を移動させる。
- 車外に出る際は、後続車両に十分注意する。特に、高速道路上では

無理に車外に出ない。

イ 警察、救急への通報（999番）

- 負傷者の有無の確認後、現場から速やかに警察、救急に連絡する。
- 周辺が目印（メトロの駅、店舗等）を把握し、発生場所を伝える。

ウ 記録及び写真撮影

- 事故現場、相手の車両の損害状況、ナンバー等を記録しておく。
- ただし、写真撮影には相手の承諾を得ること（3ページ参照）。

【事故の届出の方法】

当地では、事故の事実関係が明白でけががない（いわゆる物損事故の）場合、現場から警察に通報しても現場に警察官を派遣してくれず、スマートフォンのアプリを利用して事故の届出をするように指示される場合があります。現場でアプリをダウンロードして、届出をすることも可能です。その場合、事故の相手に対し、アプリを使って届出をすることを告げて了承を得るとともに、事故に責任のある側がどちらとなるかを十分に確認した上で、届出をしましょう。

一方で、けががある、当事者のどちらに責任があるか不明で争いがある、事故の形態が複雑である場合などは、警察官の現場臨場を要請するか、当事者がそろって警察署に出頭し、届け出る必要があります。

なお、相手側が現場で示談等を提案し、警察への届出をしないように求めてくる場合もあります（過失度合いに応じて罰則が科せられるため）。しかし、修理を求めて連絡しても応じなくなったり、説明を翻して自身に過失はなかったと主張するなど、事後になってトラブルになるケースもあります。通常、業者で修理を依頼する際には警察からの事故証明（ポリス・レポート）の提出を求められますので、基本的には事故に遭えば速やかに警察に届け出た上で、正規の手続をとるようにしてください。

4 略取・誘拐対策上のチェックポイント

(1) 「選定」対策（選ばれない工夫）

- 人目を引く高級な服装、装飾品を着装しての外出は控える。
- 社名等を表示した服装や名札の着装は必要時のみとし、個人、勤務先（資産）等の情報が外部に知られないよう注意する。

(2) 「下調べ」対策（決行場所を絞らせない）

- 自宅、勤務先を出るときには周囲の状況を確認する。
- 通勤時間及び通勤経路を時々変更する。
- 交通量の多い道路を通り、人の多い場所で行動するよう心がける。
- 子供に対しても、同じ時間、場所で単独行動させないよう指導する。

(3) 略取・誘拐対策

- 子供には、知らない人には絶対について行かないよう指導するとともに、助けを呼ぶ場合の英語（ヘルプ！）等を教えておく。
- ショッピング・モール等、一般的に安全と思える場所であっても、子供だけで遊ばせたり、行動させたりしない（保護者が目を離した際に連れ去られ、わいせつ被害等を受ける事例が頻繁に報じられている。）。

【子どもの親権問題】

外国に移住し、外国人と国際結婚された日本人のうち、不幸にして結婚生活が破綻してしまうケースもありますが、一方の親が他方の親に無断で子どもを国外に連れ出すことが問題となる場合があります。

当地では、父母の双方が親権を有する場合、一方の親の同意を得ることなく他方の親が国外に子どもを連れ去ることは、刑罰の対象となり得ます。また、連れ去り行為は、親同士だけでなく、子どもにも大きな影響を与えることとなります。

親権に関して具体的な問題をお持ちの方は、弁護士などの専門家にご相談ください。

5 とっさの一言

当地では警察官がアラビア語しか話せないことも多いので、アラビア語も最低限覚えましょう。

日本語	アラビア語
「泥棒」	ハラーミィ
「殺人」	カトル
「強盗」	サリカ
「スリ」	ナツシャール
「ひったくり」	サリカ フジャイーヤ
「交通事故」	ハーディス ムルーリー
「救急車」	サイヤーラ イスアーフ
「警察」	アッシュウルタ
「パトカー」	サイヤーラ シュルタ
「警察を呼んで」	イッタスィル ビッシュウルタ
「助けて」	ナジュダ（英語の「ヘルプ」でも十分通じます。）

Ⅱ 緊急事態発生時の手引き

※ 緊急事態

戦争、内乱、クーデター、暴動、テロ、ゲリラ、大規模事故、自然災害等、在留邦人の生命、身体及び財産に著しい脅威を及ぼす事態

1 平素の準備

(1) 所在の明確化－在留届の提出（旅券法第16条）

ア 緊急事態が発生した際の状況把握を想定し、日頃から邦人の皆さんの在留状況を把握しておくことは極めて重要です。

イ ドバイ、シャルジャ、アジュマーン、ウム・ル・カイワイン、ラアス・ル・ハイマ及びフジャイラの各首長国に長期滞在する方は、「在留届電子届出システム」（<http://www.ezairyu.mofa.go.jp>）を通じ、当館に「在留届」を提出してください。

ウ 住所、電話番号等の変更、帰国、家族の変更等、届出内容に変更がある場合は、在留届の「在留届記載事項変更届」を提出してください。

エ なお、旅券法上、3か月以上滞在する方は在留届の提出が義務とされています。

(2) 情報収集

ア 外務省及び当館では、平素から「スポット情報」や「領事メール」等で様々な情報提供を行っています。在留届を提出し、これらの情報が入手できるようにしておきましょう。

イ また、報道、インターネット等の公開情報のほか、地元の知人、社員等のローカルコミュニティからも情報収集できるようにしましょう。

(3) 籠城、避難の想定及び準備

ア 自宅又は職場内で、数日間籠城できる部屋を選定しましょう。

イ シャワー、トイレ等の設備、電源、インターネットやテレビが利用できる部屋を選定し、水、食料等を十分備蓄しておいてください。

ウ 緊急事態が発生した場合、一時的に電話やインターネット等の通信手段が利用できなくなることも想定されます。あらかじめ、一時避難場所となるホテル、施設等を複数選定しておき、家族等に周知しておいてください。

2 テロ事案に遭遇した場合の対応

(1) 爆弾テロの場合

ア 爆発は一度とは限らず、同時多発的に、又は時差的に発生する場合があります。爆音を聞いたらずはその場に伏せ、周囲の状況が分かれば、速やかに現場から離れてください。

イ 爆風等の影響で瓦礫等の下敷きとなった場合、救出までに時間が掛かることも予測されます。体力を温存するとともに、埃等の有害物質を吸い込まないように、ハンカチ等で口を覆いましょう。

(2) 車両突入テロの場合

ア 人混みなどに車両で突入して人をはね上げるテロの場合、車両が障害物等に衝突して動かなくなった後、犯人は車外に出てナイフ等で周囲の通行人を攻撃するケースもあります。

イ 外見上、交通事故に見えてもテロである可能性もあります。現場に遭遇しても不用意に近づかず、通報の上、警察等の到着を待ちましょう。

(3) 救助を求める方法

ア 例えば、瓦礫の中等で身動きが取れず救助を求める場合でも、大声で叫ぶことは体力消耗につながり、有害物質を吸い込む可能性もあります。大きな音が鳴るものを叩くなどして、周囲に知らせてください。

イ 携帯電話等が利用できる場合、警察・消防等への通報、家族への連絡等の最小限の通知を行った後は、電池の消耗を考慮し、必要最低限の使用にとどめましょう。

3 緊急事態発生時の行動

(1) 待機、避難の状況判断

ア 緊急事態が発生した場合、まずは今いる場所（自宅、職場、学校等）で安全に待機できるか検討しましょう。

イ その場が危険であると判断すれば、避難する必要があります。警察、警備員等に待避の必要性を確認し、指示・誘導に従ってください。

(2) 当地政府による避難勧告が出た場合

ア 当地政府機関が避難勧告を発出し、指定の避難所等に誘導された場合は、基本的にはその指示に従ってください。

イ 避難したら、避難場所を当館にご連絡ください。その後の国外退避等に向け、在留邦人の方の一時避難先の情報を集約する必要があります。

(3) 日本政府による退避勧告が出た場合

ア 外務省では、各国の安全状況の分析を踏まえ、レベル1からレベル4までの「渡航情報」を発出しています。緊急事態が発生する蓋然性が高まれば、「レベル4：退避してください」とする渡航情報を発出します。

イ 渡航情報には法的な拘束力はありませんが、情報収集と分析による一定の根拠に基づいて発出しているものですので、「退避してください」等の高いレベルの渡航情報が発出された場合は、可能な限り、一般商業便の運行中に自主的な国外退避を検討してください。

4 安否確認及び国外退避に向けた支援

(1) 緊急時の情報提供

ア 緊急事態が発生した場合、当館から、状況に応じて、領事メール、ホームページ等を通じて在留邦人の皆さんに情報提供を行います。

イ メール、インターネット、電話等の通信手段が一切使用できない場合は、当地の警察署、病院、避難所、主要ホテル等における情報の掲示等も検討します。また、NHK国際放送等を通じて情報提供を行う場合もありえます。

(2) 邦人の安否確認

ア 緊急事態の発生に伴う大規模な被害が発生した場合、領事メールを介してオンラインでの「安否状況確認」を行う場合があります。指定されたURLから、安否状況、待避状況等についてご回答ください。

イ そのほか、在留届の情報をもとに、当館から当地在留中の邦人の皆さんに直接連絡して安否を確認する場合があります。また、在留届を提出していない短期旅行者の方の状況を確認するため、ドバイ及び北部酋長国の主要ホテルに連絡し、安否を確認する場合があります。

(3) 国外退避の支援

ア 情勢の悪化に伴い商業定期便等が運行を停止し、さらには陸路の国境等が閉鎖され、日本国政府がチャーター機等を手配することとなった場合は、領事メール、当館ホームページ、SNS（インスタグラム、フェイスブック）等を通じて情報発信をします。また、短期旅行者等への連

絡を目的として、ドバイ及び北部首長国の主要ホテルにメール等にて連絡します。

イ なお、自力で帰国し、あるいは第三国への退避等ができた場合は、その旨当館、外務省、又は避難先の大使館・総領事館にご連絡ください。

5 緊急携行品・備蓄品の準備

緊急事態の発生に伴う自宅での待機、一時避難、さらには国外への退避を想定し、緊急時に備えて備蓄する物、携行する物を準備しておきましょう。

以下に列挙したものはあくまで目安ですが、参考にしてください。携行すべき物は、すぐに持ち出せるよう、バッグやリュックサック等に入れ、保管しておきましょう。

また、少なくとも年に1回は中身を確認し、破損、賞味期限切れ等がないか確認するようにしましょう。

《 緊急携行品等の例 》

水・食料・医薬品等
<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 水：1人1日4リットル（飲料水用+洗浄用）×最低3日分<input type="checkbox"/> 食料：軽量、冷蔵不要、調理不要、高カロリーのもの×最低3日分<input type="checkbox"/> 洗面用具：歯ブラシ、歯磨き粉、マウスウォッシュ、タオル等<input type="checkbox"/> 薬：常備薬、風邪薬、頭痛薬、下痢止め、化膿止め用塗り薬等<input type="checkbox"/> 衛生用品：マスク、絆創膏、包帯、ピンセット、綿棒、女性用品等
生活用品
<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 電子機器：懐中電灯、携帯電話用充電ケーブル、携帯充電池等<input type="checkbox"/> ラジオ：AM・FM・短波放送受信可能なラジオ<input type="checkbox"/> 工具：ペンチ、レンチ、シャベル、缶切り、キャンピングナイフ等<input type="checkbox"/> 食器類：ゴミ袋、ジップロック、紙製食器、割り箸等 <p>（以下、余裕があれば揃えたいもの）</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 地図、裁縫用具、簡易マット、寝袋、娯楽品（書籍、ゲーム類）
衣類等
<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 下着及び靴下（使い古したものを捨てずに保管しておくのもよい）<input type="checkbox"/> 長袖、長ズボン（締め付けが少なく余裕のあるサイズがよい）<input type="checkbox"/> 帽子、サングラス、コンタクトレンズ用品<input type="checkbox"/> 丈夫な靴、又は脱ぎ履きしやすいサンダル
貴重品等
<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 旅券、身分証明書類（Emirates ID等）<input type="checkbox"/> 重要情報の控え・メモ（銀行口座番号、保険関係、緊急連絡先等）<input type="checkbox"/> 小切手、カード、ある程度の現金（米ドル、ディルハム）

6 主要緊急連絡先（U A E 国番号 +971）

在ドバイ日本国総領事館	04-2938888（代表）
在アラブ首長国連邦日本国大使館	02-4435696（代表）
【U A E 警察・救急・消防】 警察・救急車（全首長国共通） 消防（全首長国共通）	999 997
【日本政府関係】 外務省 在オマーン日本国大使館 在サウジアラビア日本国大使館 在カタール日本国大使館 在クウェート日本国大使館 在バーレーン日本国大使館	+81-3-3580-3311（代表） （海外邦人安全課・内線2851） +968-24-601028 +966-11-488-1100 +974-4-440-9000 +965-2-530-9400 +973-1-771-6565
【ドバイ政府関係】 U A E 外務省ドバイ事務所 ドバイ首長府 ドバイ市政庁（Dubai Municipality） ドバイ入管（G D R F A） ドバイ民間航空庁	04-4040000 04-3533333 04-2215555 04-3139999 04-2828270
【警察】 ドバイ警察本部 シャルジャ警察本部 アジュマーン警察本部 ウンム・ル・カイワイン警察本部 ラアス・ル・ハイマ警察本部 フジャイラ警察本部	04-6099999 06-5633333 06-7409999 06-7656662 07-2356666 09-2051100
【空港】 ドバイ空港 シャルジャ空港 フジャイラ空港 アル・アイン空港	04-2245555 06-5581111 09-2226222 03-7855555

【病院】	
《ドバイ》	
SAKURA MEDICAL AND DENTAL CLINIC	0 4 - 4 4 5 2 8 7 5 (日本語対応可)
AMERICAN WELLNESS CENTER	0 5 5 - 9 1 8 9 7 0 1 (日本語対応可)
RASHID HOSPITAL	0 4 - 2 1 9 2 0 0 0
DUBAI HOSPITAL	0 4 - 2 1 9 5 0 0 0
LATIFA HOSPITAL	0 4 - 2 1 9 3 0 0 0
AMERICAN HOSPITAL	0 4 - 3 3 6 7 7 7 7 (3 7 7 5 5 0 0)
WELCARE HOSPITAL	0 4 - 2 8 2 7 7 8 8
MEDICLINIC CITY HOSPITAL	8 0 0 - 1 9 9 9
《シャルジャ》	
KUWAITI HOSPITAL	0 6 - 5 0 3 1 1 6 3
《ラアス・ル・ハイマ》	
AL ZAHRAWI HOSPITAL	0 7 - 2 2 8 8 5 4 4
SAQR HOSPITAL	0 7 - 2 2 2 3 6 6 6
《ウンム・ル・カイワイン》	
UMM AL QUWAIN HOSPITAL	0 6 - 7 0 6 0 5 0 0
《フジャイラ》	
THUMBAY HOSPITAL FUJAIRAH	0 9 - 2 2 4 4 2 3 3
FUJAIRAH HOSPITAL	0 9 - 2 2 4 2 9 9 9
《アジュマーン》	
SHEIKH KHALIFA MEDICAL CIT AJMAN	0 6 - 7 1 1 7 7 7 7
KUWAITI HOSPITAL	0 6 - 7 4 2 2 2 2 7 (6 3 1 7 7 7 4)
MUSHEIRIF HEALTH CENTRE	0 6 - 7 0 3 0 4 2 5